

# 令和7年度 第1回 大野市廃棄物減量等推進審議会の概要

日 時 令和7年8月4日（月）  
午後7時00分～8時30分  
場 所 結とびあ 302号室

## 1 開会

## 2 会長あいさつ

## 3 議 事

### （1）令和6年度のごみ処理状況

事務局から資料1ページから6ページに基づき説明を行った。

委員からの意見等は次のとおり（要旨）

○委員：2ページ目の埋立処分場だが、現状ではどのくらいの埋立能力が残っているのか。

⇒委員：令和6年度末で5000立米ほどの残容量がある。年間の埋立量が1000立米ぐらいあるので、大体5年間は残容量としてあると考える。

○委員：あと5年というとすぐだと思うが、そのあとの予定地等は考えているのか。

⇒事務局：先ほどの話は4段目までのこと。次5段目の計画があるので場所は変わらない。

### （2）令和6年度の廃棄物減量化及び資源化に向けた取組

事務局から資料7ページから10ページに基づき説明を行った。

○委員：プラスチック資源回収について質問したい。目的としては廃棄物の減量ということで始めていると思うが、ゼロカーボンの観点からは、有効な施策か。

⇒事務局：プラスチックごみの資源回収を令和6年度から新たに始めたが、集める量が少ない。大きな課題である。1年で分別を変えるということは難しいが、現状と意見を踏まえ、本当に実効性のある分別を考えていかないといけない。

○委員：何年か後、思うように成果を上がらなくなれば、分別をやめることも可能性としてはあるか。

⇒事務局：分別を始めた理由が法律が変わったためである。それに逆行することは難しいので全くやめてしまうということはない。ただ、方法・種類などかなり制約を設けているため、分別がわかりにくいということが課題。そこを見直すということになる。

○委員：ビュークリーン内での分別の方法を変える、もしくはリサイクルを上げるための方法は考えていないか。

⇒委員：現状、5品目に限定して手選別している。分別の種類を増やすことは構成市との話し合いとなる。そこは検討課題と感じている。

### （3）リチウムイオンバッテリーの回収について

事務局から資料11ページから12ページに基づき説明を行った。

○委員：現状、電池の扱いは結構難しい。大きいものもあれば、小さいものもある。膨らんで

るものもあり、衝撃加えたら爆発する可能性もある。仮にステーション回収となると、収集車両で積み込みが非常に怖い。濡れると危なかったり、端子同士くっつくと火事が起きる場合もある。それを1回1回収集で状況を見るっていうのは非常に難しい。時間と労力がかかる。

○委員 : 大野市は結局この3つのどれでいくのか。

⇒事務局 : まだ決まっていない。勝山市や広域事務組合との調整が必要になる。この場で、それぞれの立場で意見を伺いたい。例えば牛乳パックをステーション回収に出さずにスーパーに出す。これはいつでも出せるからであるが、車がないとなかなか難しいため、ステーションが良いと思う方もいる。

○委員 : 火災が起きるとごみが出せず、家庭にずっと置きっ放しになってしまう。高齢者にリチウムイオンと言っても分からない。ごみの分類と早見表にリチウムイオンの出し方があったが、大半は見えてないだろう。壊れたらそのまま危険物に出してしまう方が多いと思う。回収の方法が決定したら市報でも何でもいいので高齢者から幼児にまで分かるようなお知らせをしてほしい。

⇒事務局 : プラスチックのときも絵などで説明した。リチウムイオンバッテリーも絵で説明する。現状、マークがついてるとメーカーが回収するが、中国製になるとそういった回収ルートにはのらない。回収方法を整理して、説明をしていく必要がある。

○委員 : 捨てるのが困難だと不法投棄が増えると思う。非常に危険なものなので、ごみという感覚ではなく危険物、突き詰めれば薬品と認識を変えていく方がいいのではないか。その認識でいくとごみステーションに出すのは非常に危険。危険物っていう認識にして、処分はしかるべき人がする。ビュークリーンへの持込が利便性に劣るというのであれば、拠点なり、回収できるところを増やして、ここに持っていけば処分してもらえるっていうところがいいのではないか。

○委員 : 環境省の文章は結局市町になにをしろといているのか。

⇒事務局 : 利便性が高い収集方法で、保管を適切にして、循環利用、適正処理を行うべき、という通知。火災の防止と資源の有効利用を2つ合わせたような通知である。

○委員 : 仮にステーション回収をすとして、ビュークリーンおくえつ内でストック場所はあるか。

⇒委員 : 施設で基幹改良工事、大規模工事を3ヵ年にわたってやっており、工事の資材を置くため、使えるはずのヤードの制限を受けている。今年度で工事が終わる予定であるため、次年度以降、場所の活用ができると考えている。火災の防止のための設備投資が必要になるかどうかを検討課題。

○委員 : 降ろす際ダンプアップできない。手下ろしは非常に時間コストがかかる。降ろした後の選別もしないといけない。それだけ人員も必要になる。非常にコストがかかることばかり。

○委員 : 個人の見解だが、個人の責任で、ビュークリーンに持込、処理できるようにしていただくのが良い。

○委員 : 大野市としていつからをめぐりに回収をする予定か。

⇒事務局 : 契約の切り換えが変更の機会と思っている。

○委員 : 国、メーカーは当然責任があると思う。それを市町村に全部うまくやれって言われるのも違うと思うが、まずは日本国民、市民、みんなの意識をきちっと持たないといけない。

閉 会

● 副会長あいさつ